

中津ロータリークラブ週報

2025～2026年度 第2720地区スローガン

みんなでつなぐ、育てる、ロータリーリレーションシップ

UNITE FOR GOOD

よいことの
ために
手を取りあおう

フランチェスコ・アレツォ 2025-2026 RI会長テーマ

第3419回 2025年10月8日 点鐘:12:30

| | | | | |
|----------|----------------------|--------|--------|---|
| 本日の出席者 | 会 員 数 | 43名 | 欠 席 者 | 事前:西郡会員(東龍IAC)、松本会員(大分OliOli) |
| | 出席対象者数 | 42名 | | 林会員、細川会員、井上会員、柿内会員、松下会員、三重野会員、峯中会員、中山会員、丹羽会員、高津会員、恒廣会員、山口会員 |
| | 出 席 数 | 30名 | | |
| | 出 席 率 | 71.43% | (12名) | |
| 3416回の修正 | 出 席 率 | 73.81% | メークアップ | 林会員、西郡会員(東龍IAC)、峯中会員(Eクラブ) |
| | メークアップ | 3名 | | |
| | 修 正 率 | 80.95% | 欠席者 | 細川会員、柿内会員、松下会員、三重野会員、村上会員、里見会員、高津会員、恒廣会員 |
| 来 訪 者 | 岡田百代氏 (㈱ネオマルス 常務取締役) | | | 今週の歌 我等の生業 |

●会長の時間〔原岡会長〕

10月4・5日、三光総合運動公園で「リレー・フォー・ライフ・ジャパン」が開催され、松本委員長、三重野副委員長、池田幹事、東九州龍谷高校インターアクトの皆さんと参加しました。「リレー・フォー・ライフ」は1985年、米国の外科医ががん患者を励ますために24時間走り続け、寄付を募ったことから始まった運動で、がんと向き合う現実を象徴しています。会場には松永循環器病院、中津胃腸病院、宇佐高田医師会病院など医療関係者が多く、看護科をもつ高校のインターアクトクラブも活躍していました。雷雨のため開始が遅れましたが、テント内は総裁選の映像を見ながら熱気に包まれていました。インターアクトの先生方とも打ち合わせができ、10・11月の例会や12月のポリオコンサートについて話し合いました。ただ、先生方の多忙さから活動の継続に不安もあり、提唱クラブとして見守る責任を改めて感じています。

会員増強では「会員候補者名簿」の作成を進めており、従来の方法を見直し、新たな手法に挑戦しています。白石委員長が私の意を汲んで進めてくださっていますが、ご意見は私に直接お寄せください。本日は外部講師による卓話もあり、新たな気づきが得られることを期待しています。

最後に、10/31大分市ブリック・ブロックでの地区ポリオ撲滅チャリティーコンサート大分部門への参加をお願いいたします。

●幹事報告〔池田幹事〕

- ・週報受領 中津中央
- ・回覧 ガバナー月信、山形南RC会報、11月例会出欠確認表、ロータリー財団・米山記念奨学会寄付確認表

●委員会報告

- ・理事指名委員会〔小倉委員長〕
次年度理事の立候補者はまだいません。例会後、理事指名委員会を行います。
- ・会員増強委員会〔白石委員長〕
会員候補者紹介カードご協力をお願いします。
- ・R情報・公共イメージ委員会〔山本洋一郎会員〕
「ロータリーの友」の紹介 6p/地域に貢献する酒蔵、22p/2026年国際大会

●ニコニコボックス

- 〔瀧会員〕 会員増強について。
- 〔安藤会員〕 訪韓します。
- 〔川上会員〕 ゲスト歓迎します。
- 〔川嘉真人会員〕 骨と関節の日について。
- 〔山本洋一郎会員〕 歌舞伎公演のご案内。
- 〔中野会員〕 訪韓します。

●ゲスト卓話


「地域で生まれた小さなモデルがつながりをつくる」

(株)ネオマルス 常務取締役 岡田百代氏



小さなモデルが生まれた瞬間

「人を軸に、現場の課題を仕組みで解く」

| | | |
|--|---|---|
| 01 電気通信工事 × STELLA 属人的な現場を見える化 | 02 ドローンプラットフォーム 地域連携から全国展開へ | 03 GoSmart(どこでも社食) 社員食堂のデジタル変革 |
|  |  |  |

小さく始め、地域で育て、全国へつなげる。地方企業だからこそ、できることです。

弊社で生まれた事業モデルの中で3つの事業モデルの紹介をいたします。どのように地域から生まれ、つながりを創出していったかをご紹介します。

電気通信工から始まった変革

当時、工事の世界ではいつもの会社が間に入るケースが多く、現場で対応する職人さん正真正正の職人さんにも少なくありませんでした。そのうえ、工事現場も広く狭くあり、美観に汗を流す方々に十分な対応が図れていないという現状もありました。私たちは、まずこの仕組みを現場から変え、現場で働く人が正真正正に評価され、適正な対価が得られる仕組みをつくりたい。そしてこの事業そのものを少くとも食べていけるようにしたい。




「現場で働く人が報われる仕組みを目指して」——そんな思いから、私たちの挑戦が始まりました。

まちなか社員食堂

コロナ禍が生んだもう一つの取り組み

地域の飲食店を応援したい。従業員とともに、それが従業員にもとても喜ばれる仕組みでした。



電気通信工から始まった変革


全国を行脚し、仕組みに賛同いただける工事会社と協賛企業とパートナーネットワークを築くこと、そして実績を積み重ね、全国の工事案件をもつ企業との取引を広げること。東京での営業活動を強化いたしました。



まちなか社員食堂

どこでも社食で三方よし

従業員満足度を高めたいがコストを抑えたいそんな悩みを解決します



従業員
好きなお店・食べたいお店・よく行くお店で食事補助を受け食事を楽しめる

企業
場所や人員を確保せず福利厚生を柔軟に設計

飲食店
新しい顧客の獲得と常連客による安定収入

食事補助の仕組みを、店舗とユーザーにはアプリで、企業にはWebの管理画面で提供。すべてをデジタルでつなぐことで、課題を解決しました。企業・従業員・地域店舗の「三方よし」を実現し、地域のつながりを取り戻すモデルです。

電気通信工から始まった変革

全国をつなぐ(発注元・業務窓口・工事会社・職人さんを一元で結び仕組み)

STELLA誕生 ～ 見える化の力




手配を標準化し、工程を一元管理するSTELLAシステムを自社開発しました。いまでは年間数万件の工事を同じ土俵で回せるようになり、仕組みが人を助け、ネットワークが地域をつなぐ最初の小さなモデルとなりました。

人への投資と仕組みによる支援

「人に投資し、仕組みで支える。」

これまでのモデルはすべて現場を支える人が報われなければ持続しません。コア業務の人材に十分な対価を返すことを最優先にしています。

- 人材の即時マッチング(弊社人材事業部の強み)必要な人が、必要なタイミングで、必要な現場に
- 人が活躍できる時間を増やすAIやクラウドは道具、主役はいつも“ひと”



XROSS DRONE PLATFORM

コロナ禍が生んだ新たな挑戦

コロナ禍で「地域の事業を少しでも支えたい」という思いから始まった挑戦。都市型事業展開から地方への新しい展開が生まれました。



01 県の公募に応募
ドローンビジネスプラットフォームフォーマーとして公募に挑戦し、採択をいただきました


02 事業者をつなぐ
県内のドローン事業者と仕事をマッチングする仕組みを構築

03 全国展開へ
大分県から始まり、現在6県(岐阜県・福岡県・鹿児島県・長野県・長野県)での展開で約50の仕組みを展開中

04 業界内で既存の仕事奪い合うのではなく、新たな仕事を生み出すことに挑戦
農業分野への応用
農地野営に活用し、白ネギで年間稼働可能なビジネスモデルを確立

人を軸に、補助金を活かす仕組み

新事業には時間と投資が必要です。だからこそ私たちは、補助金を「お金をもらう制度」ではなく、「事業計画を踏む制度」として活用しています。



自社の強みを整理
国の様々な事業により、事業の幅が広がられ、自社の強みが見えてきます

社外連携の促進
単独では難しい事業も、新しいパートナーシップによって、実現可能な事業も増えます。協業の基盤が築かれます


地域が仲間になる
地域の企業や自治体との連携が深まり、共創の文化が育ちます

人に投資することが、地域の未来を支える

コア業務を支えるメンバーに十分な対価を返すことを最優先に考えています。人に投資することこそが、地域の未来を支える基盤だと感じています。優秀な人材が地方に残り、活躍できる環境を作ることが、持続可能な地域発展の鍵となります。

XROSS DRONE PLATFORM

農業分野への応用 季節仕事から通年事業へ



なぜ「白ネギ」だったのか

米や麦の散布は年に1～2回と少なく、ドローンを通年で稼働させる仕組みを作るには限界がありました。そこで私たちは、農地野営の中でも「白ネギ」に注目しました。

【高橋氏の散布が必要】白ネギは年間を通じて出荷され、病害虫防除や収穫のために月数回～毎週の散布が行われます。これにより、ドローンを安定して稼働させることができます。

【持続可能なコスト削減】散布回数の多さによるコスト負担を抑えるため、生産者と事業者の間で価格調整を行い、双方にとって納得できる運用モデルを構築しました。

【地域産業としての適性】白ネギは全国有数の主要作物であり、大分県でも「100個作りプロジェクト」として産業強化が進められていたことから、社会貢献の第一歩として最適でした。

人を軸にした仕組みづくり

「人に投資し、仕組みで支える。」



- 電気通信工事×STELLAの教訓
真実的な取り組みを見える化し、ネットワークをつなぐ
- ドローンプラットフォームの成果
事業者が活躍できる機会を増やし、利用者が使いやすい環境を整える。全国展開で投資をつなぐ仕組み
- GoSmartの価値
食を通じて企業・従業員・食肉店をつなぐ

AIやクラウドは、人が活躍できる時間を増やすための道具です。テクノロジーそのものが主役ではありません。主役はいつも“ひと”なのです。

●例会のご案内
10月29日(水) 夜例会(18:30～鬼太郎)
11月 5日(水) 祝日週休会
11月12日(水) 会員卓話
(ロータリー財団委員会)ポリオ関連



中津ロータリークラブ週報

国際ロータリー
第2720地区

事務局 / 〒871-0055 大分県中津市殿町1383-1 中津商工会館2F
TEL 0979-22-6908 FAX 0979-22-6909
E-mail nakatsu.r.c@feel.ocn.ne.jp URL https://www.nakatsu-rc.com
例 会 / 毎週水曜日 12:30～13:30 ヴィラルーチェ中津 TEL 0979-23-1122
●2025-2026年度
会長 / 原岡知徳 幹事 / 池田修治 R情報・公共イメージ委員長 / 川島真之